

主任コラム 6月号

主任 澤井 良子

新年度が始まり2か月が経ちました。子ども達も周りの大人や友達、園生活にも慣れて表情も和らいできたように思います。

朝登園してくるとどのクラスの子ども達も好きなコーナー、気の合う友達と遊びだし幼児クラスのコーナーの中には、将棋とプリズム（三角形のパーツを組み合わせて作るドイツのおもちゃ）が加わりました。将棋を知らない子が知っている子に教えてもらったり、見て覚えていく姿も見られます。

ラQ



将棋



プリズム



先日、積み木コーナーでの事です。年長児のA君とB君、年少児のT君が言い合いになっている声が聞こえてきました。積み木コーナーでよく遊んでいるB君とT君が積み木の取り合いになり、T君がB君の積み木を取っていき、その時にB君の作っていた物をわざとではないですが壊してしまい、怒ったB君がT君を押してしまったとのことでした。それを見ていたAくんが仲裁に入っていました。

A君「B君が怒るのも分かるけどさ、T君は取ったのも壊したのもあかんけどさ、T君は年少さんやしB君は年長さんなんやで、我慢してあげたらいいやんか」

という言葉にB君は無言で遊びを続け、T君はA君とB君の顔を見ながら、積み木を返そうとしたり、またB君から取って行こうとしたりしていました。私は黙って3人の様子を見ていました。すると

A君「なあ、B君聞こえとる？許してあげなよ」

とまたB君に声を掛けていました。するとB君は積み木コーナーから離れ私の膝に座りにきました。T君の傍にはA君がいて

A君「T君も取ったらあかんよ」と声を掛けていました。

このやり取りを見た時に、B君はきっと相手は小さい子と分かっているけれど自分だけが責められたという気持ちになって受け止めて欲しくて膝に座りにきたのかな？と感じ、またT君も年少児という事で責められずかばってもらえたと感じて2人の顔を見ていたのかな？と思いました。A君は、全てのやりとりを見たうえで“年長・年少という関係”を考えお互いの気持ちを一番感じ取っていたのではないかなと思うと同時に、A君の年長児としての思いの強さを感じました。

後日、今度はB君が積み木コーナーで年少児のI君が積み木入れを押して、お友達の作品が壊れそうになっているのを

B君「I君、あかんよ。これ押したら。お友達のが壊れるよ」と優しく何度も声をかけてくれている姿がありました。その姿を見てB君の成長も感じ嬉しくなりました。

この2つの出来事は、子ども達同士のやりとりで大人は介入していませんが、日常的にこのようなやりとりは子ども同士で行われています。また保育士に助けを求める時もありますが、自分が見て感じた事を相手に伝えるということができ、自分達で解決しようとしていたところがすごいと感じました。



異年齢保育の役割として

- ・年齢の違う子に対して自分の言い分を主張する力
- ・思いやり、援助の気持ち、寛容の育ち
- ・経験豊富な子から援助を受けることと、まだ経験不足な子を助けること
- ・自分をお手本ととらえ、自分の行動を振り返る力

ということが先日の研修の中でありました。小さい子は大きい子の姿に刺激や憧れを持ち、大きい子は小さい子の面倒を見させられる…ではなく、小さい子がいればいるほど自分達が経験したことを教えていこうという気持ちが自然と育っていくのだそうです。

先週には、西玄関の所にピーステーブルができました。ここは、子ども同士が喧嘩などになった時に落ち着いて話す場所です。早速、先週あたりから年長さんがここにきて話している姿を見かけます。思い切り言い合い、時には水筒のお茶を飲みながら話しあっています。またここでのエピソードもお伝えしていきます。



ピーステーブル

感じた事を自由に表現し伝えられる環境を用意し、子どもの姿をしっかりと見て子ども達の人間関係の育ちの部分も大切にしていけるように見守っていきたいと思っています。



←「お水あげたら、カタツムリ出てくるかな？」(2歳児)



←階段も自分たちで下りれるよ(1歳児)



←「先生もっててね」
(2歳児)



←自分で被ってみたけれど…せんせい、やって…
『できなかつた？一緒にやってみようね』(1歳児)